

UR

UR都市機構の情報誌 [ユーアールプレス]

P R E S S

特集 アートする団地 団地の「美」見つけた！



阪本順治監督インタビュー
団地の歴史と
景観を借りて
人の営みを
描きたかった

Fr./Sa. 23
Stil Alice
American
Astrix in
Heute bin
Do./Mo.
Spongebo
Spongebo

ab 12
ab 0
ab 16
ab 0
ab 16ÜL

tgl. 20 Uhr; Fr./Sa. auch 23 Uhr
Die Bestimmung – Insurgent (3-D)
daily except Wed. at 8 pm
Shaan das Schaf – Der Film
tgl. 13.45 Uhr; 16 Uhr (Mi. erst 17.15 Uhr);
18.15 Uhr (Mi. nicht); So. auch 11.30 Uhr
The Boy Next Door
tgl. 20.30 Uhr; Fr. auch 23 Uhr
Cinderella
tgl. 14.20 Uhr; Fr.–Di. auch 17.20 Uhr;
So. auch 11.30 Uhr
Kingsman: The Secret Service
Fr./Sa. Mo. 10.30 Uhr; So. 11.30 Uhr

Neu ab 6
Neu ab 12ÜL
Trip
er Trip (3-D) Neu ab 0
So. auch 11.50 Uhr
d a Day Neu ab 0
So. 17 Uhr

Special Interview

かけがえのない出会いを大切に
女優の道を、迷いなく進みたい

女優
檀れいさん



01 まちの記憶 ⑩ 「横長の四角、縦長の四角」 角田光代

03 Special Interview 未来を照らす ⑩

檀 れい さん 女優

かけがえのない出会いを大切に
女優の道を、迷いなく進みたい



07 特集 アートする団地 団地の「美」見つけた！

09 地域とコラボ 「団地の暮らし」が壁面アートになった

戸頭団地 茨城県取手市

11 美しき団地ギャラリー

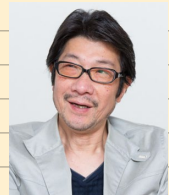
13 大学とコラボ パブリックアートで団地を活性化

高槻・阿武山団地、富田団地 大阪府高槻市

15 伝説のアパートが美しくよみがえる 西長堀アパート 大阪市西区

16 阪本順治 監督インタビュー

団地の歴史と景観を借りて人の営みを描きたかった



19 URのまちづくり最前線 ②

オフィスと水辺をつなぐ緑道からまちを“育てる”提案を
大手町川端緑道(東京都千代田区)

21 復興の「今」を見に来て！ ⑥

大規模商業施設が起工。中心市街地の復興が本格化！ 岩手県陸前高田市
人が戻り、明かりが灯る。復興の第二ステージへ！ 宮城県気仙沼市

26 届け！笑顔 ⑤ AKB48 「誰かのために」プロジェクト 東北復興支援

大槌町(岩手県)

27 URのまち あのまち・このまち・歩いてみよう！ その③

立川駅北口周辺(東京都立川市)

29 ベランダ菜園の楽しみ ⑩ たなかやすこ

花も葉も実もかわいいスナップエンドウ

30 シンプルライフのススメ ② やまぐちせいこ

押し入れを美しく整えるとモノが増える抑止力になる！

30 男子弁当のススメ！ ② 相田幸二 サンマの蒲焼き弁当



31 プレゼント付きクロスワードパズル

32 UR INFORMATION

季刊「UR PRESS」Vol.47

2016年10月31日発行

発行 独立行政法人都市再生機構

〒231-8315

神奈川県横浜市中区本町6-50-1 横浜アイランドタワー

Tel 045-650-0882 Fax 045-650-0889

制作 日本経済社

編集協力 新潮社、編集室りっか

デザイン 太田デザイン事務所

印刷 凸版印刷

※本誌掲載の記事、写真、イラスト等の無断転載を禁じます。

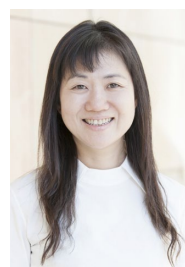
※本文中の肩書きは取材時のものです。

表紙の世界

集合住宅のよさは、
人と人の距離感が近いこと。
そのため「イベントをしよう！」
となれば、企画する人も
参加する人も一緒になって
盛り上げ、育てていく。
そんなあたたかさ
つながるように
思います。



イラストレーション・小林マキ



かくた・みつよ

作家。1967年、神奈川県生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。1990年「幸福な遊戯」で海燕新人文学賞を受賞しデビュー。「対岸の彼女」(文藝春秋)での直木賞をはじめ著書・受賞多数。最新刊は「なんでわざわざ中年体育」(文藝春秋)。

まちの記憶 10 角田光代
横長の四角、
縦長の四角



なぜだか理由は

わからないけれど、四角い集合住宅が昔から好きだった。団地を見るとわくわくした。

大人になって、成田空港に向かう電車に乗っているとき、窓の外にものごく大きな集合住宅が見えて、驚いたことがある。巨大な四角の棟がずらりと並んでいる。すごい、カッコいい、と思わず見とれ、見とれつつも不思議な気持ちになった。この建物にたいする「好み」は昔から変わらないらしいと、このとき発見したのである。以後、成田空港に向かうとき、都内へ帰るとき、私は窓の外にこの集合住宅があらわれるのを心待ちにしている。

香港はまさに

細長い建物ばかりの町だ。今はなくなってしまった

啓徳空港に降り立つ飛行機に、幸運にも乗ったことがある。遠くから見たらマッチ棒みたいなビル群のなかに、すーっと飛行機は降りていくのである。ぶつかるとではないかという恐怖は感じず、私はひたすら、香港の景色に驚いていた。それまで、横に長い建物しか見たことがなかった。四角い建物好きの私だが、縦に長い建物には馴染みがなかった。だから、細長い建物が密集する光景は異様に見えた。その異様にただひたすら圧倒された。もう十八年も前のことだ。

以来、香港は何度もいつているが、いついってもまだ見慣れない。いくたび、建物にびっくりし、圧倒される。

空港から電車に乗って中心街に向かう。山や工業地帯を映していた車窓に、やがてのっほのビル群が見えてくる。曇りの日は霞の向こうに、晴れの日には青空を背景に、書き割りみたいな光景がじよじよに近づいてくる。ああ、香港にきたと指の先まで実感する。

によきによきと

そびえる建物は、ショッピングビルやオフィスビルのこともあれば、集合住宅もある。

土地が限られているから、香港の中心に住もうと思うと集合住宅になるよう

だ。家賃を聞いて目を瞠った。東京よりずっと高い。

信じがたいことに、

どんなに高い高層ビルでも、香港の人たちは竹の足場を組んで作る。

はじめてこの「竹の足場」を見たときは混乱した。細い竹が複雑に、縄みみたいなもので縛ってある。これをはるか上まで続いている。混乱が鎮まると感動する。うつくしいと思う。昨年、はじめて竹ではない足場を見た。鉄だったのだが、落胆している自分に気づいて苦笑した。

香港を歩いているとやたらにわくわくするのは、もしかしてかたちは違えど「好み」の建物に囲まれているからかもしれない。

今、もっとも活躍する女優のひとりである檀れいさん。
阪神淡路大震災に遭ったことで人生を見つめなおした宝塚時代から、
退団後の出会い、そして11月の明治座公演の見どころまで、
たっぷりとお話を伺いました。

未来を

照らす

10

Special
Interview
Rei Dan

かけがえのない
出会いを大切に

女優の道を、
迷いなく進みたい
檀れいさん 女優

阪神淡路大震災で
生き方が変わった

宝塚歌劇団の下級生のときに、
阪神淡路大震災を経験しました。
ちょうど大劇場の公演に向けて
お稽古の真っ最中のときでした。
リニューアルして2年目、最新
の技術を集めた宝塚大劇場は大
きなダメージを受けて閉鎖にな
り、お稽古をすることもできず
「これから先どうなってしまう
のだろう」と大きな不安に襲わ
れました。余震が続き、同期や
先輩、下級生の多くは実家など
に帰省するなか、私は寮に残り、
寒くて怖い思いをしながら、い

ろいろなことを考えました。

その頃の私は、宝塚に対する
知識もあまりないままに入学し、
上下関係、礼儀作法の厳しさに
カルチャーショックを受け、ま
た自分自身に劣等感を抱く日々
でした。もともと引つ込み思案
な性格だったこともあり、夢を
抱いて宝塚に入ったというのに、
目立たないようにと自分を抑え
て、人の後ろに隠れるようにし
て生活していたんです。

でも、当たり前だと思ってい
た日常が、地震で一瞬にして変
わってしまいました。当たり前
のように舞台上立っていた日常
が、ある日突然ゼロになってし

まったのです。

そのときに、舞台上立って、
お客様にお芝居やショーを見て
喜んでいただきたいと思って入
団したのに、自分はいったい何
をしているの？ 大変な思いを
しながらもここにいるのは、エ
ンターテイメントが好きだった
からじゃないの？ 自分がやり
たいと思っていた舞台をしっか
りとやるためには、人に遠慮し
たり、自分を抑えていないで、
もっと自分を出さなければいけ
ないと、そう思ったんです。地
震によって、そのときの自分を
顧みることができたんですね。
それからは、生きている限り

前に進まなければと自分に活を
入れたといいますか、人の目を
気にせず、なんでも自分から積
極的にやるように変わりました。

人生にはいろいろなことがあ
ります。地震などの天災は人間
がどうすることもできないこと
できれば遭いたくないし、起こ
ってほしくないですが、もし遭
遇してしまったときは、自分が
どう次の一步を踏み出すかが大
事なのだ、その経験から痛感
しました。自分自身の在り方と
か、気の持ち方……阪神淡路大
震災は、悲しい出来事ではあり
ますが、自分を変える大きな転
機にもなりました。

山田洋次監督との かけがえのない出会い

2005年に宝塚を退団してからは、舞台のほかにも映画やテレビ、CMなどでお仕事をされるようになりました。なかでも特に印象深いのは、映画「武士の一分」での山田洋次監督との出会いです。

その頃の私は宝塚を退団した直後で、舞台での経験はあるものの、映像のお仕事は初めて。何もかもが違う、まったくの未知の世界で、とにかくいい映画を作りたい、いい作品にしたいという思いだけでワンカット、ワンシーンに必死にくらいいついていきました。今の自分があるのは、あの映画があったからこそ、そして山田監督に出会ったからこそだと思います。

山田監督にはいろいろ教えていただきましたし、お言葉もか



明治座公演「祇園の姉妹」で姉の梅吉役を演じる。

けていただきましたが、特に心に残っているのが、「どんな役をやるにしても、その人自身の在り方、素地が大事なんだ」ということです。役者というものは、ただ役を演じるだけでなく、そこには必ず演じる本人の人間性がいじみ出てくるものなので、教えていただきました。そ

これは、宝塚で舞台に立っていたときに、自分で大切にしていた部分でもあったので、とても心に響きましたし、今も折に触れて思い返しています。

これからも、皆さんが喜んでくださることは何でもやってみたいと思っています。ただ、年を重ねていくにつれて、できる

明治座初出演は 古風な祇園の芸妓役

11月からは、東京の明治座で「祇園の姉妹」の公演を務めます。舞台のお仕事は3年ぶり。私にとって、舞台のお仕事は核にな

っているので、すごくワクワクしますし、また舞台に立つ怖さも肌でわかっているの、身が引き締まる思いです。

物語は、祇園で芸妓として生きる姉妹のお話で、私は姉の梅吉を演じ、妹役のおもちゃを剛力彩芽さんが演じます。

この姉妹、性格が正反対なんです。台本を読んだときに、こんなに姉妹でも違うのかなって思うくらい(笑)、ものの考えから生き方まで、まったく違うんですよね。

私が演じる姉は、祇園の芸妓



というよりは、普通の奥さんでいたほうがいいような、情に厚い古風な女性。それに対して妹は、どうしたら自分の得になるかを常に考えているような、打算的な性格なんです。それだけに、姉の私は妹と顔を合わせる

神田の芸妓さんの役を演じたこととはありますが、祇園の芸妓さんは初めてです。お着物のお芝居ということで所作はもちろん、京ことばも難しいですが、演じるのは楽しみです。

を中心に、松平健さん、山本陽子さん、葛山信吾さんという素晴らしい方々ばかり。安心して胸をお借りしながら、それぞれの方々とお芝居をさせていたたくのも、楽しみです。そして、皆さまには対照的な姉妹のやりとりを、ぜひ楽しんでいただきたいと思っています。

ことが少なくなってきましたし、50代、60代でアクシジョンをするのは難しいですよ(笑)。そういう意味でも、今のうちにアクションとか、アクティブな役をやってみたいですね。

まち歩きやアートで リフレッシュ

プライベートでは、美術や音楽が好きで、時間のあるときは気分転換も兼ねて、まち歩きや建物ウォッチングを楽しんでいます。日本でしたら京都や金沢など、昔ながらの街並みが残っているところが好きですね。そういうまちでは、特に何をしてもなく、ゆっくりと歩いてそのまちの雰囲気を楽しみます。

木造建築が主体の日本と違って、海外では何百年も前の建物が残っているのが魅力ですね。昔、貴族が住んでいたお屋敷やお城がホテルとして使われている、古い建物や建造物を通して、「どんな人が住んでいたんだろう」「どんな暮らしをしていたんだろう」と、当時の人々に思いを馳せたりします。日本

プライベートでの空間も大切にしていくことのひとつです。おうちに帰ったら、仕事の頭を切り替えたいので、時間がゆっくりと流れるような空間づくりをしたいと思っています。具体的にいうと、さわやかな風や光が気持ちよく通り、窓やリビングから緑が見えるおうちがいいですね。理想は、母が住んでいた、心から寛げる大切な空間です。

と、常に妹に振り回される役回りです。物語では、妹が私の幸せを願って「お姉ちゃんにはこの人がふさわしい」と私の人生をひっかき回すので、すごく大変です(笑)。

芸妓役は、以前、宝塚時代に

だん・れい

1992年、宝塚歌劇団に入団。99年より月組トップ娘役を、2003年からは星組トップ娘役を務め05年に退団。06年、山田洋次監督作品「武士の一分」のヒロイン役で鮮やかにスクリーンデビューを果たし、第30回日本アカデミー賞優秀主演女優賞および新人俳優賞、第44回ゴールデンアロー賞など数々の賞を受賞。その後も映画、ドラマ、舞台、CMと活躍を続けている。11月4日～27日、明治座「祇園の姉妹」に出演。

●明治座チケットセンター

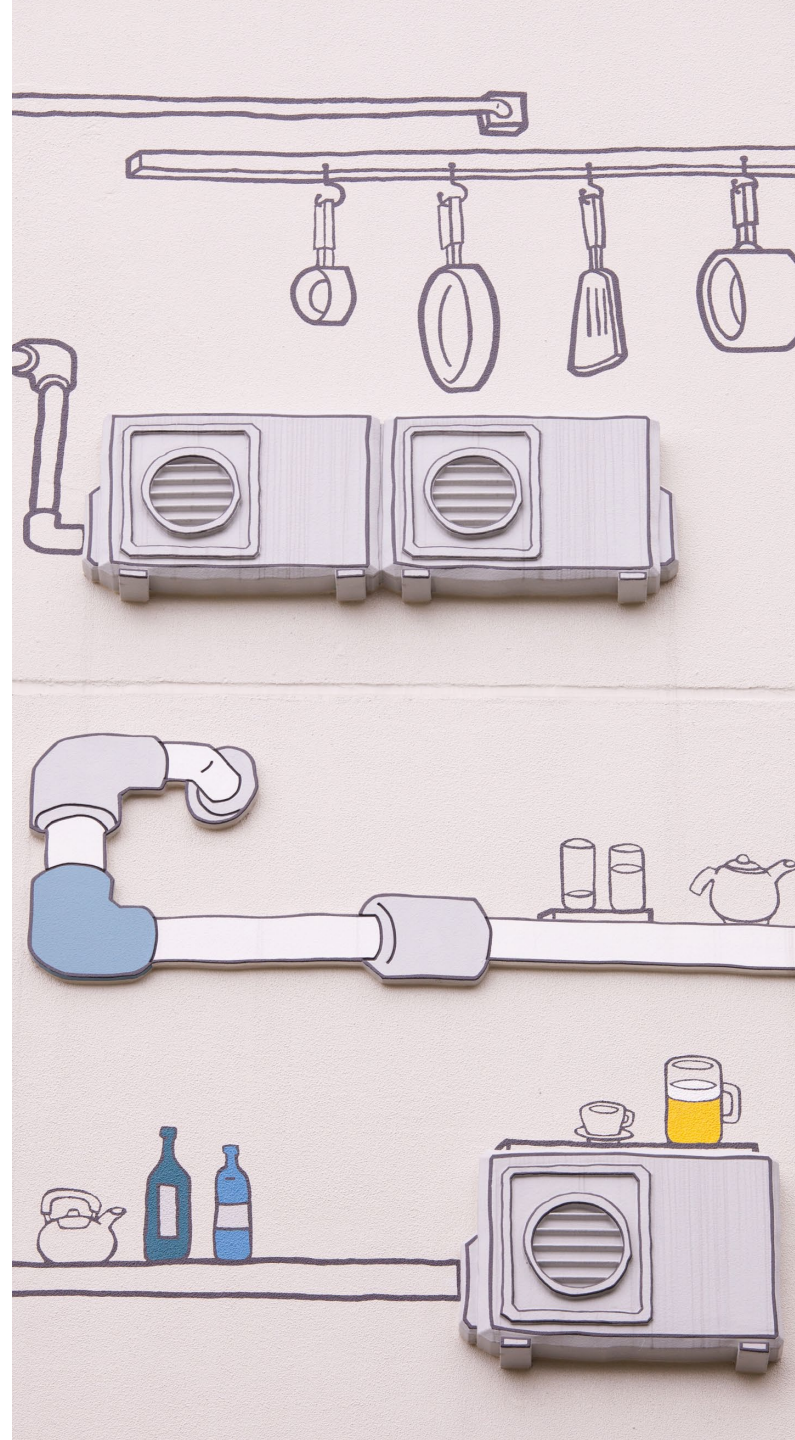
☎03-3666-6666(10～17時)



「UR PRESS」オンライン版で、パソコンやスマートフォンから権れいさんのインタビュー動画がご覧いただけます。(2017年1月末まで)



WEB UR PRESS

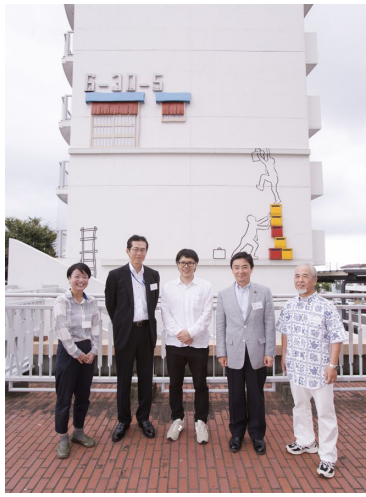


団地

団地の「美」
見つけた！

する

一見、無機質に見える団地だが、
探してみると
個性あふれるアートに彩られている。
著名な美術家の作品が
さりげなく飾られていたり
歴史を重ねた建物そのものが
美しいアパートもある。
大学と共同で、アートで団地を
活性化しようという動きも注目だ。
「アート」と「美」というキーワードで
団地を見つめ直してみた。



写真左から、TAP事務局長の羽原康恵さん、UR都市機構の由利義宏、アートを手掛けた上原耕生さん、取手市長の藤井信吾さん、立ち上げ時の自治会長の篠田信五さん。



関東鉄道常総線の戸頭駅から団地の中へと続く遊歩道の左右に、こんなに楽しいアートが。



地域とコラボ 「団地の暮らし」が壁面アートになった

戸頭団地 茨城県取手市

茨城県の戸頭団地では、地域のアートプロジェクトとUR都市機構が共同で行う「アートのある団地」プロジェクトが完成。団地の壁面に現れた楽しい空間が大好評だ。

団地の壁面が楽しいキャンパスに

遊歩道から見上げる住棟横の壁面に、洗濯物がひるがえっている。張り渡した紐に下がっているのは、シャツやトランクス、カラフルな

タオルもあればジーンズもある。あちらの棟では書棚に手を伸ばす人影が見え、こちらの壁には配管が縦横に走り、むこうには電柱がそびえ立つ。その一つひとつが作品で、絵に半立体的な造形も加え、楽しくてちょっと不思議な世界を団地の空間に創り出している。千葉県との県境に近い茨城県最南部にある取手市の戸頭団地。2010年、取手アートプロジ

エクト（TAP）はUR都市機構の協力のもと、「アートのある団地」プロジェクトを立ち上げた。その活動の中で、戸頭団地の11棟にこれらの作品を手掛けたのは上原耕生さん。13年から今年8月までの3年がかりで完成させた。上原さんのプランは、居住者から戸頭団地にまつわるエピソードを集め、それをもとに作品をつかって壁面に展開していくというもの。目指しているのは、アートを美術館でしか見ることができないものではなく、身近な生活空間にある日常のものにすること。自分のプランを「IN MY GARDEN」と名付けたのも、団地に住む人たちに「自分の家の庭にアートがある」と感じてほしいからだという。

団地活性化のために「前例なし」を越えて

ここ取手市には、1991年に東京藝術大学美術学部が取手キャンパスを開設。これを受けて市と市民、大学が協力して若いアーティストを支援し、同時に市民の芸術体験の場を広げようと、99年にTAPが生まれた。芸術のまちを目指す取手市をフィールドに、こ

れまでも地域の人たちと連携してさまざまなプロジェクトを進めてきた。

「そのTAPさんと一緒に、アートの団地を活性化し、若い人にアピールするために何かできないかと考えたのが始まりでした」

UR都市機構東日本賃貸住宅本部で東京東・千葉地域本部長を務める由利義宏は語る。折しも戸頭団地では、約20年ごとに行う外壁修繕を控えていた。この機に乗じて壁にアートを展開しようと、プロジェクトは動き始めた。

UR都市機構の団地では、壁を絵で飾ることはあっても、これほど大規模にアートを展開したケースは他にない。そのため実現にはさまざまな苦労があったという。例えば作品を特徴づけている半立体の造形だ。これは上原さんにとつてはこだわりのポイント。

「室外機や配管など生活の中にあるものを、よりリアルに作品に表現することで、日常とアートの間にある『敷居』を低くしようという狙いがありました」

しかし、人が住む団地では何より安全性が最優先だ。外壁に突起物を取り付けるのはUR都市機構

では前例がなかったが、軽く強い建材を採用し、入念な安全リサーチを行って乗り越えたという。

アーティストと居住者のコラボレーション

団地の空き店舗を利用して、創作活動や居住者との交流拠点となるスタジオを作ることから始まり、エピソードの募集やプランニングの検討会、節目で行うイベントなど、プロジェクトは居住者参加のもとで進められた。

「スタジオのペンキ塗りを手伝ったり、楽しい経験ばかりでした」プロジェクト開始当時の自治会長だった篠田信五さんはいう。実は戸頭団地では、以前にも使わなくなった施設をTAPのアート展に

提供したことがある。居住者も参加して盛り上がったが、会期が終われば、それでおしまいだ。「今回はプロセスを見たり参加したりするだけでなく、作品も残り、いつも目の前にアートがある団地になる。それが一番の喜びです」TAPによれば、プロジェクトではアーティストと居住者がコミュニケーションを重ねながら活動すること自体もアートの一環ととらえるが、団地では居住者の創造力や発想の豊かさに驚かされることが多いという。さまざまな背景と資質をもつ人たちが集まって住む団地。アートのフィールドとして、大きな可能性を秘めた存在だといえるだろう。

団地の空き部屋がホテルに变身

「サンセルフホテル井野団地」

取手アートプロジェクトが取手市にある井野団地で開催している「不定期出現ホテル」。これは井野団地の空き部屋を客室に変え、住民有志によるホテルマンがおもてなしをするとともに、お客様と一緒にソーラーワゴンを使って太陽光を蓄電するというユニークな試み。今年は9月18・19日の1泊2日、約40年前にこの団地に住んでいたご家族をお客様に迎えて開催された。





のうげんだい ピーコンヒル能見台

横浜市金沢区
子どもを遊ばせる公園が団地内に複数あり、芝生の緑が建物と美しく調和している。

あさかほまさき 朝霞浜崎

埼玉県朝霞市
「団地は森。」をコンセプトに行った大規模改修のトータルデザインが、2014年グッドデザイン賞を受賞。



ひがしひ ええきまえ アーベイン東比恵駅前

福岡市博多区
オープンスペースを博多の路地に見立て、伝統ある博多堀を巡らせた。

じょうの 城野

北九州市小倉北区
壁面の色彩が、2013年グッドデザインカラー改修部門の優秀賞を受賞。



九州

かなやま 金山 福岡市城南区

丘陵地を生かして広場と遊歩道が美しく整備され、住む人に憩いの空間を創出。

しのめ 東雲キャナルコート CODAN

東京都江東区
UR賃貸住宅として初めてグッドデザイン賞を受賞(2005年)。山本理顕氏、伊東豊雄氏、隈研吾氏ら著名な建築家が住棟を設計した都市型団地。

関東

美しき団地



ちからまち アーバニア主税町

名古屋市東区
江戸時代、名古屋城下にあった当時の位置に現存する、唯一の武家屋敷長屋門。団地の一角で文化遺産の継承と町並み景観保全に役買っている。

ちよだ アーバニア千代田

名古屋市中区
タワー型超高層住宅1階エントランスホールで、愛知県瀬戸市出身の陶芸家、故加藤鈴氏の作品「旭光」(1987年)がお出迎え。



中部

ほうせい 豊成 名古屋市中川区

3号棟のピロティを、愛知県瀬戸市出身の陶芸家、故鈴木青々氏の壁画が飾る。



ギャラリー 西日本

こだわりのデザイン。
心なごむあたたかな光や、
地域との調和から生まれたかたち。
住む人をやさしく見守る、
団地で見つけた
さまざまな「美」を
集めました。

みかげ グリーンヒルズ御影

神戸市東灘区
団地そのものも美しいが、ここから眺める神戸の夜景にもうっとり。



ゆうひがおか 夕陽丘市街地住宅

大阪市天王寺区
共用部のリノベーションに際して照明計画を一新。夕日をイメージした明かりが2014年照明普及賞を受賞。



富田団地の居住者たちが作った「こどもギャラリー」。夢のある絵柄が埋め込まれている。



上/ 団地全体の入り口で人々を見守るのは、竹内三雄氏の作品。下からのぞくと、青空が切り取られて面白い。
左/ バス通り沿いにある「少女と犬」シリーズ。(2点とも高槻・阿武山団地)



富田団地の空を泳ぐ古着で作った鯉のぼり。団地の皆さんから大好評だった。



富田団地で学生たちが始めたのは、芋はんを押したカードを入れるポスト作り。竹を割き、それを編んで作るという。



大阪芸大とのアートプロジェクトを推進するUR都市機構西日本支社技術監理部企画チームの岩田知之(右)と小栗俊亮。



高槻・阿武山団地のバス通り沿いに置かれた川島慶樹氏の作品に、大学生たちが座ってみた。「これ、キノコみたい」「テーブルかな?」。アートってなんだか楽しいぞ。



大学とコラボ

パブリックアートで団地を活性化

高槻・阿武山団地、富田団地 大阪府高槻市

関西では大阪芸術大学と協働で、「団地」に眠るパブリックアートを再発見、お住まいの方々とアートを通じた交流を進める取り組みが始まっている。

団地に眠るアートを探してフィールドワーク

「住んでいる人たちは、このアートをどう思っているんだろう」「叩くとよく響くから、音も含めて活用するとおもしろいかも」
プロンズ造のオブジェを囲んで口々に語りあっているのは、大阪芸術大学芸術計画学科の学生たちだ。ここ高槻・阿武山団地には、敷地内に20以上のパブリックアートが点在している。
この日行われたのは大阪芸術大学とUR都市機構が協働で進めているアートプロジェクトのフィールドワーク。指導する谷准准教授や4回生の案内で初めてこの団地を訪れた1回生たちが、見て感じたことをベースに「アート作品をどう生かしていくか」に思いを巡らせた。

このアートプロジェクトは、団地に埋もれている多彩なパブリックアートにあらためて着目し、それを生かしてさまざまな活動を行うってアートを身近なものにし、団地の活性化につなげていこうというもの。2014年11月にスタートした。

谷准教授によれば、芸術計画学科の目的は、芸術文化のプロデューサー役の育成にあるという。

「芸術と社会との関係をいかに構築するかがテーマですから、このプロジェクトでもお住まいの方々とワークショップを重ね、協働して取り組むことを目指しています」
まずは関西14団地でフィールドワークを行ってアートの視点で見た団地の魅力を知り、ホームページなどで伝えていくことからスタート。長期的には新しいアートの発信拠点の創出や居住者とともに学ぶ場として、アートカレッジを作ることも視野に入れているという。UR都市機構西日本支社技術監理部の岩田知之は、
「団地の魅力を発信すると同時に、コミュニティの活性化につなげることが理想です」
とプロジェクトへの思いを語る。

居住者パワーと若い力が創り出すアートシーン

高槻・阿武山団地では、パブリックアートにスマートフォンをかざすと、画面に1分間のアニメが流れるというAR(拡張現実)を利用したプランを企画中だが、同



富田団地自治会長の滝谷哲男さんは、「学生たちと作った古着の鯉のぼり。掲げてみたら、これが一番きれいだった」とうれしそう。

じ高槻市の富田団地ではすでに居住者参加のアートワークショップが行われ、目下第二弾の準備が着々と進められている。
富田団地に学生たちがフィールドワークに赴いたのは昨年の6月。その際、自治会の方々と自治会主催の行事やイベントの活発な実施状況を聞き、一緒に参加したいと学生たちが申し出たのがきっかけだ。中心となった現在4回生の田中健太郎さんによれば、
「団地恒例の鯉のぼりイベントに合わせて、住民のみなさんから集めた古着を使って一緒に鯉のぼりを作りた」と提案しました」
生活からかけ離れたところにあると思われているアートに対する居住者の意識を変え、古着を使うことで、思い出を特別な日のための「かたち」にしようという試みだ。学生たちは、後日あらためて20ページにも及ぶ企画書を自治会の方々にプレゼンテーションしたが、終わった途端に自治会会長の澁谷哲男さんから返ってきたのは「やるなら、すぐに動かんといかん」という快諾と激励の言葉だった。学生たちもこれにこたえて、居住者への企画の周知をはかるア

トカフェやワークショップなどの取り組みを精力的に実施した。
「鯉のぼり作りの日には、親子連れはもちろん、8歳のおばあさんも参加してくださいました」と田中さん。古着をほどこいて1枚1枚うるろを作り、配色を考えた縫い合わせた美しい鯉のぼりは見事に団地の空を泳いだ。
次なる企画は、玉川牧田コミュニケーションセンターの芋掘り行事に合わせた芋はん作り。創作した芋はんを押したカードに団地へのメッセージを綴り、それを団地の自治会館に展示したり、団地内の壁に投影する企画へと発展させる。
「人と人とのつながりも考えた企画で、若い人は発想もパワーも違うと驚きました。自治会としても応援していきたい」
と澁谷会長。団地の居住者と学生、そしてUR都市機構が力を合わせたアートプロジェクト。それ自身が、新しい形のパブリックアートといえるかもしれない。



阪本順治監督
インタビュー

さかもと・じゅんじ
映画監督。1958年生まれ、大阪府出身。
大学在学中より石井聰互(現: 岳龍)、井筒和幸、川島透らの各監督の現場にスタッフとして参加。
89年に『どついたるねん』で監督デビューし、数々の映画賞を受賞。
2000年の『顔』では、日本アカデミー賞最優秀監督賞、
毎日映画コンクール日本映画大賞・監督賞などを受賞した。
そのほか『亡国のイージス』『北のカナリアたち』『ジョーのあした 辰吉丈一郎との20年』など作品多数。
最新作『エルネスト』は2017年全国公開予定。

団地の歴史と景観を借りて 人の営みを描きたかった

今年公開された映画『団地』は、
阪本順治さんが脚本から監督まで務めた完全オリジナル。
団地には、適度な開放感と淋しさ、
そして人とのつながりによる安らぎがある、
だからこそ団地を舞台に映画を撮りたかったという阪本監督。
20代も80代も共に暮らすコミュニティーも団地ならではの魅力で、
団地再生の鍵を握るのは若者だと語ります。

映画『団地』の舞台は、最近
の高層化してエレベーター
のある集合住宅ではなく、僕が小
学校から中学の頃に建てられたよ
うな、エレベーターのない5階建
での団地です。
僕と、この映画の主役の藤山直
美さんは同じ昭和33年生まれで、
子どもの頃に大阪万博があり、ニ
ュータウンという名で次々と新し
い団地が建つ時代に育ちました。
当時の団地は、新しい住まいのか
たちや明るい未来、快適な暮らし
の象徴。映画館に行くと、本編前
のニュースで空撮の団地群や室内

のシステムキッチンなどが映り、
「機能的で快適な生活」と紹介さ
れていました。
それが、年月が経ち、エレベ
ーターのない5階は空室が目立ち、
デイスリーブの車がお年寄りを迎
えに来るなど、時の流れを感じさ
せる場所になっています。そんな
昭和のよき時代に建てられた団地
のいまの姿に興味があり、カメラ
を向けたくなったんです。
団地を擬人化すれば……、彼ら
が生まれ、彼らがずっと居続けた
ことで、そこには「種独特な」匂
い」が漂っています。空室に行く

阿部民子=構成、青木登=撮影(P18)



上/美術団体から「このア
パートにあるはずだ」と言
われ、埋もれていた吉原治
良氏の壁画を再発見した。
ちぎり絵をモチーフに世界
の大理石を用いて仕上げた
作品。
右/日差しが入り明るくモ
ダンな、1階の共用廊下。



どこか懐かしさも感じるリノベーション住戸。



伝説のアパートが 美しくよみがえる

西長堀アパート 大阪市西区

かつて森光子など多くの著名人が住み、
伝説のアパートとして
名高い西長堀アパート。
美しさはそのままに、
現代によみがえった。



目の前に長堀川が流れていた創建当初、タクシーで
「マンモスアパート」と言えばここに着くほど有名な
建物だった。

東西幅100mもの外壁に縦
長のスリット窓が整然と並
ぶ特徴的なファサード。当
時は慣れない高層住宅の高
さへの不安や、冬場の寒さ
への配慮から生まれたもの。

大阪市営地下鉄西長堀駅か
ら徒歩1分。交通至便の地
に「マンモスアパート」の愛称で
親しまれた伝説的な集合住宅があ
る。1958年に建てられたUR
都市機構の西長堀アパートだ。
都市型住宅の理想を追求したこ
の先進的なアパートは、地下1階
地上11階、当時関西一の高層住宅
で、内部での住み替えを考えて
263戸の住戸は1Kから2LD
Kまで8タイプ。各室に洋式トイ
レやタイル張りの浴室を採用し、
ロビーや談話室、洗濯室や物干し
場などの共用施設を備えていた。
「最初の頃は、司馬遼太郎さん
をはじめ、著名人もお住まいでした」
1967年以降の居住者・大原
淑子さんは往時を振り返る。
アパートの観点から見ても、西長
堀アパートは時代の先端を走って
いた。100メートルもの幅のあ
る鉄筋コンクリートの建物は随所
に昭和モダンの香り
があふれ、前面の外
壁には通風と採光の
ための縦長の窓が、
2階から11階まで美
しい縦のラインを描
く。パブリックアー
トを設置した集合住宅としてもこ
は草分け的存在で、ロビーでは、
大阪出身の前衛画家・吉原治良の
壁画が人々を出迎えた。
築58年を経ているが、今年2月
には耐震補強とリノベーションを
終え、若返って再デビューを果た
した。受け継がれてきた昭和モダ
ンのデザインやディテールは残し
て改修し、パーテーションに遮ら
れて長らく人目に触れなくなっ
ていた壁画も、今は晴れやかにロビ
ーの主の座を取り戻している。大
幅なりノベーションを施した住戸
の募集も行われ、抽選倍率3.6
倍の人気を博した。
「改修で美しくよみがえった姿に、
建設当時は斬新な存在だったんだ
ろうなとあらためて認識しました。
これで若い人たちが入居するよう
になればうれしいですね」
そう言って、自治会長の菅野道
夫さんは相好を崩した。



「自治会の名前は「西長堀マンモス
自治会」。地区の盆踊りにも「マン
モス」の名前で参加します」と話す
自治会長の菅野道夫さんと、会計
の大原淑子さん。

西上原三千代=文、佐藤慎吾=撮影



©2016「団地」製作委員会

映画『団地』のあらすじ

大阪近郊の団地に、一人息子を事故で失ったのをきっかけに老舗漢方薬局をたたんだ、山下ヒナ子(藤山直美)と清治(岸部一徳)夫婦が引っ越してくる。自治会長の行徳正三(石橋蓮司)と君子(大楠道代)夫婦をはじめ住民は、新参者に興味津々。そんなある日、些細なことでへそを曲げた清治は、「僕は死んだことにしてくれ」と床下に隠れてしまう。突然姿を見せなくなった清治に、住民たちは失踪か、と大騒ぎ。さらに不思議な言動をとる青年(斎藤工)が山下家を訪れ、物語は意外な顛末に。劇中には「団地ってオモロイなあ……噂のコインロッカーや」とか「ありえないことがありえるのが、団地」など印象的なセリフもちらばめられている。



●映画「団地」のDVD・ブルーレイディスクが2017年1月に発売予定。

と、ここにどういう人が住んで、どんな暮らしを営んだかを想像させられる。特に今回は大切な人を失うことがテーマのひとつです。団地が受け入れてきた、いろいろな人生、いろいろな家庭、その歴史みたいなものを借りて、人の生き死について語りたと思ったのが、団地を映画の舞台に選んだ大きな理由です。

つながりと淋しさが両立する場所

映画って、セリフはもちろんのこと、映像や風景も重要な「言語」なので、この物語にはどういふ団地がいちばんふさわしいかにはこだわりました。僕らが見つけた団地は、ちょっといびつな並びで建っている団地。独特な給水塔のデ

ザインも決め手になりましたね。室内の撮影はセットを組みましたが、美術部さんがリニューアルされる団地の部屋から、床板や流し台、吊戸棚などをいただいてきて使いました。だから、素材は本物です(笑)。

猛暑の中で撮影でしたが、その団地は高齢の方が多く、クーラーを使わないのでカーテンも窓も開けっ放し。朝は読経やラジオが聞こえてくるし、夕方はテレビの音が響いてきて、部屋の中も丸見えだから、「みんな、のぞくなよ」ってスタッフに声かけて(笑)。そんな風景を見て、団地って個々が守られつつ、どこか同じ場所で暮らしている安心感やつながりがある場所なんだなと思いました。主人公の夫婦は、息子を失った

団地再生の鍵を握るのはいまどきの若者

て宇宙を漂っているという話もよく聞くけど、自分なりに仮説を立てられないだろうか、というのも柱にありました。その答えのひとつの現れが、映画の中の斎藤工くんの「こっち(現実社会)のほうがいい、非科学的なんだ」というセリフです。

最近のURの団地では、空室になった部屋をMUJIやイケアなどコラボして、若者向けにリノベーションしていると聞きました。面白い試みですよ。団地が登場

した当初は、おじいちゃんやおばあちゃんがいる大家族から解放された、核家族の若い夫婦を対象にしていたのだと思います。だからこそ、均一化された間取り、均一化された内装で、中流の平均的象徴としての住まいだったのでしょう。それがいまのリセットされて、高層階には20代の若者が住み、低層階には80代の方が住んだりしている。こういうコミュニティは、団地以外にはなかなか見られないのではないのでしょうか。いまの若者は、将来車を持つ予定のない人が70%近くいるなど、

ことで漢方薬局をたたんで、住まいを変えることになりました。まったく人と関わりたくないと思えば、プライベートが確保されるオートロックのマンションを選ぶでしょうが、閉じこもって悲しみを抱えるにはしんどすぎる。建てられた当時のぎやかだった団地ではなく、いまの団地なら、適度な淋しさと適度なコミュニティがあっても、安らげるんじゃないかと感じました。

自分の中のしこりをすべて入れ込んだ作品

主演の藤山直美さんと映画を撮るのは、『顔』という作品から数えて16年ぶりになります。舞台と映画という似て非なる現場にいますが、16年間お互い違う経験をして、同じ年を重ねてきた。一方で時代もモノづくりのあり方も変わってきて、また違う会話ができてきました。藤山さんが一番似合うのは市井の人で、団地の階段下の郵便受けの前が似合う(笑)。そう思えたのも、団地を舞台にした理由になりました。この映画はまた、僕が脚本から



ない商売というか、人の死を商売にしているようなものではない。それだけに、人が亡くなったらどうなるのか、肉体は消えるけど、考えてきたことや感じてきたこと、思想なども全部消えてしまうのか……ということ、幼い頃からずっと考えていたんです。魂となっ

いわば、日常や常識をひっくり返したわけですね。16年の間に、僕も藤山さんも身近で大切な人を失う経験をしている。そこから生まれた実感を、重苦しいテーマでなく軽妙に表現したい、というのが、この映画の根っこになっています。

リセットされて、高層階には20代の若者が住み、低層階には80代の方が住んだりしている。こういうコミュニティは、団地以外にはなかなか見られないのではないのでしょうか。いまの若者は、将来車を持つ予定のない人が70%近くいるなど、

「UR PRESS」オンライン版で、パソコンやスマホから阪本順治監督のインタビュー動画がご覧いただけます。



WEB UR PRESS



公共R不動産との トークイベントも開催

2016年7月29日、公共R不動産とUR都市機構のコラボレーション・トークイベント「パブリックライフと公共空間のこれから」が東京都千代田区の「アーツ千代田3331」で開催された。公共R不動産ディレクターの馬場正尊氏、ヤン・ゲール著『パブリックライフ学入門』の翻訳を手掛けた東京大学准教授の中島直人氏、「官能都市」レポートを発表したHOME'S総研所長の島原万丈氏が、「歩行者」や「人のアクティビティ」を中心に据えた都市の在り方をめぐり、闊達なトークセッションを展開した。

後半では、UR都市機構の秋山も登壇し、大手町川端緑道プレイスメイキング社会実験の概要やURが各地で進めるエリアマネジメント・プレイスメイキングの取り組みについて紹介した。

UR都市機構の
東日本エリアでの都市再生の取り組みを
フェイスブックで紹介しています。
<http://www.facebook.com/ur.toshi/>



2016年2月に実施された、プロジェクターによる照射実験では、首都高速道路の高架下を野外スクリーンに見立て、プロジェクションアートを映写。夜の川端緑道が幻想的な空間に変身した。



大手町の事業を担当する田嶋靖夫(上)と、UR都市機構による各地の事業を横断的にみている秋山仁雄(下)。「川端緑道の有効活用により、将来的に大手町が神田や日本橋とも人の流れで有機的につながるまちになれば」と語る。



2015年のワークショップ開催時の大手町川端緑道。周辺で暮らし、働く大勢の人が集まった。歩行者が思い思いに楽しむという「人のアクティビティ」が加わることで、生きた空間に変貌する様子がうかがえた。



URの
まちづくり
最前線2

ランチを求める人たちにぎわう 大手町川端緑道は、幅12メートル、長さ800メートル。歴史が感じられる上品な舗装が施され、高架下を流れる日本橋川に向けてベンチが配置されている。

大手町川端緑道 東京都千代田区

オフィスと水辺をつなぐ緑道から まちを「育てる」提案を

日本経済の中核的な役割を担う大手町。今月7月には高級日本旅館「星のや東京」がオープンして、話題を集めている。この大規模エリアの再開発にあたり、UR都市機構は仕組みづくりから参加し、区画整理や再開発などの事業を実施。大手町をより魅力的なまちに育てる活動にも力を注ぐ。

平 日の昼ともなれば、キッチンカーがずらりと並び、ランチを買い求めるオフィスワーカーたちが行列をなす。緑の植込みとゆったりとしたベンチが随所に設置され、天気の良い日には寝転んで、くつろぎたくなる。そんなオアシスのような空間が、ビジネス街の大手町で生まれつつある。

「人の景色」が見える 有機的なまちづくりを

数多くのオフィスビルが集中する大手町エリアでは、老朽化した建物を計画的に順次建て替えていく連鎖型都市再生プロジェクトが進められている。東京都、千代田区、そして多くの民間企業が関わるこのプロジェクトに、UR都市機構は公平・中立な立場で計画の策定から参加。培ってきたノウハウや経験を生かしながら土地区画整理事業などを行っている。

こう説明するのは、UR都市機構東日本都市再生本部都心業務部 大手町第1チームの田嶋靖夫だ。プロジェクト名は「大手町川端緑道プレイスメイキング社会実験」。プレイスメイキングとは、「場の創造」という意味だが、いったいどんな実験を行うのだろうか。

第1弾として、2015年11月、UR都市機構と、世界的都市デザイナーのヤン・ゲール氏が主宰するゲール・アーキテクト社がコラボレートして、ユニークな社会実験を実施した。ひとつは、ランチタイムにテーブルや椅子を実験的に並べて川端緑道における人の動きがどう変化するかを見るなど、さまざまな観点から、人の流れや行動を観察する環境改善調査。もうひとつは、川端緑道の将来像を多様なイメージ写真の中から選んでもらい、将来どんな空間になってほしいか、来訪者の声を集めて「見える化」するワークショップの開催だ。

大手町の新たな くつろぎ空間を目指して

田嶋と共に取り組む、東日本都市再生本部事業企画部 事業企画統括グループの秋山仁雄は次のように振り返る。「こんな場所があったらいいよね」という声が集まり、大手町は自分にとって大事なまち」という意識が見てとれたのが、一番の収穫です。まちづくりのプ

このプロジェクトの一環として、首都高速道路の下を流れる日本橋川に沿って続く千代田区の公道の一部が、歩行者専用道「大手町川端緑道」に整備されたのは、2014年春のことだ。竣工と同時に千代田区に引き渡され、現在は民間のエリアマネジメント団体が維持管理しているが、話はそこで終わらない。大手町フィナンシャルシティエリアの一角に位置するこの川端緑道の活用をめぐり、UR都市機構はソフト支援も行っている。

「少し前まで都市開発やまちづくりの役割は、つくる、が中心でしたが、これからはつくった場所を、育てる、ことが重要。まちづくりとは単なる空間整備ではなく、人の景色をつくることだと思っています。それには、大手町で働いている皆さんに、川端緑道をより魅力的な空間へ育てるための一員になっていただけたらと考えたのです」

ロセスを、このエリアで働く人々と共有する重要性も感じました」

その後、川端緑道沿いの大手町フィナンシャルシティのアトリウムを会場に、シンポジウムも主催。都市環境づくりに関わる各界の有識者らが、川端緑道のあるべき将来像を示唆する、貴重なディスカッションを繰り広げた。

また2016年2月には、UR都市機構と、水辺の有効活用を提唱する「ミズベリングプロジェクト事務局」、地元のエリアマネジメント団体の3者がタッグを組み、高架下の暗いイメージを逆転の発想で活用し、首都高速道路の橋桁にプロジェクションアートを映写する実験も行った。

「海外の金融ビジネス街には大抵、人が集まり、くつろげる公共空間が用意されています。そこは新しい出会いや情報交換の場であり、ビジネスチャンスが生まれる場所。日本経済の中心地である大手町の足元にある、川端緑道の空間を活用しないのはもったいない」と、田嶋と秋山が声を揃えて言う。

今はまだ、知る人ぞ知る大手町の新名所だが、UR都市機構では、川端緑道の存在をより多くの人に認知・活用してもらうため、今後も社会実験と調査・分析を継続していく予定。川端緑道を含む大手町エリアの新たな可能性を探求し、魅力的なまちづくりへの提案を続ける。



海側から望む、陸前高田の整備中の市街地。手前は奇跡の一本松。

陸前高田商工会会長の伊東孝さん(左)と、UR都市機構陸前高田復興支援事務所所長の犬童伸広(右)。高台に建つ下野地区災害公営住宅の屋上からは、日々進捗する復興工事現場が一望できる。

規模で、かさ上げに必要な土はじつに約1200万m³(東京ドーム約10個分)。その膨大な土砂を効率的に運ぶために、全長3キロメートルに及ぶベルトコンベヤーを設置することで工期を約6年も短縮した。昨年には役目を終えたベルトコンベヤーの撤去が開始されるなど、着実に復興への歩みを進めている。

新しい陸前高田市の中心市街地は、旧市街地を平均で7〜8メートルかさ上げして北側へ移動、高台に新たな住宅地を造成し、全体もコンパクトに集約する。去る8月31日には、先行して整備が進む中心市街地で、核



陸前高田市企画部商工観光課課長の村上幸司さん(左)と、課長補佐の千葉達彦さん。「我々と同じ職場にいた仲間もずいぶんくなりました。彼らのためにも、前よりよくなったまちをつくり上げたい」

となるショッピングセンターの起工式が行われた。来春には完成し、大型遊具などを揃えた「まちなか広場」と同時期にオープンする予定だ。「分断していたかさ上げ地がつながって平面となり、今まで図面で見られなかった建物がいよいよ建ち上がってきます。新しい市街地形成のステージまで来ました」と感慨無量の面持ちで話すのは、陸前高田市企画部商工観光課の村上幸司課長だ。同商工観光課課長補佐の千葉達彦さんは、「新しいまちを一からつ

くるということで、前にも増してよいまちなしなれば、という思いも大きい。市民の皆さんの期待もひしひしと感じます」と語る。新しい陸前高田のまちづくりで大きな力となっているのがUR都市機構だ。2012年に陸前高田市と協力協定を締結、復興市街地整備事業と災害公営住宅建設の業務全般、総合整備を担っている。UR都市機構陸前高田復興支援事務所所長の犬童伸広は、自ら志願して東北へ赴任してきた。「陸前高田市では、市役所と商業者、商工会と我々URが「チーム高田」となって、まちづくりを進めています。ここに配属されて、その一員になれて幸運でした」中心市街地づくりでも、UR都市機構はさまざまなアイデアを提案、調整などの業務を推進してき

楽しく過ごせる新しいまちづくり

た。幾度にも及ぶ話し合いの結果、メインストリートとなる本丸公園通りでは、歩行者の安全を確保でき、まちなかのにぎわいづくりにつながるように、店の前面には駐車場をつくらない計画に。地元が伝統行事「うごく七夕」の山車が動かしやすい道路の舗装材を選ぶなど、住民や事業者の声を生かした細やかな配慮もなされている。また、戸羽太陸前高田市長が掲げるスローガン「ノーマライゼーション」という言葉の「いらぬいまち」を実践すべく、点字ブロックの高さや色などにもこだわった。陸前高田商工会の伊東孝会長は「犬童さんは高田の人間よりも高田のことを思い、我々と強い連携をもって仕事を進めてくれて、本当にありがたいです。我々にとつての本当のスタートは、それぞれのお店がオープンし、まちびらきを迎えるとき。今後は、継続的に人が集まる魅力的なまちにするため、多くの人に足を運んでもらえるような仕掛けづくりもしていきたい」と語る。高台の造成地でも宅地が続々と完成、人々が新しいふるさとへと戻りつつある。陸前高田のまちで、新しい暮らしが動き始めている。



復興の「今」を見に来て!
第8回 Part1
陸前高田市
岩手県

大規模商業施設が起工。中心市街地の復興が本格化!

2012(平成24)年に協力協定を締結して以来、UR都市機構は陸前高田市と気仙沼市で復興まちづくりを支援している。かさ上げが進み、復興の新たなステージに入った2つのまちを訪ねた。

東 日本大震災の津波を耐え抜いた「奇跡の一本松」で知られる岩手県陸前高田市。復興まちづくりの規模は被災3県で最大

WEB UR PRESS
[UR PRESS]オンライン版で、パソコンやスマホからドローンで撮影した陸前高田と気仙沼の動画がご覧いただけます。
陸前高田 気仙沼



気仙沼市観光キャラクターの「海の子 ホヤぼーや」グッズも取り扱っています

ファミリーマート気仙沼鹿折店オーナーの成澤誠一さん。

12年に協力協定を締結したUR都市機構は、この鹿折地区で復興市街地整備事業と災害公営住宅整備事業を展開している。42ヘクタールの敷地では、住宅地地約3メートルを基本に、海に近い商

工業地で約1・8メートルを基本としたかさ上げと整備が順調に進捗。ファミリーマートは鹿折地区のまちづくり、商業地復興への先駆けとなる第一号店だ。「鹿折地区では、より早くスムーズに店舗や工場などの契約ができるよう、『事業者等エントリー制度』を活用しています」と語るの

「部屋が明るくて広いので、引っ越してきて、気持ちも明るくなりました」



「休日は自転車で市内を回って、震災前の地図と照らし合わせながら、土地勘を養っています」というUR都市機構の市街地整備課主査の栗栖大輔(左)と、「これからの不安を抱える方の、よき話し相手になれば」と語る春野正成(右)。

宮 城県の気仙沼湾の最奥部に位置する鹿折地区。津波と大規模火災で壊滅的な被害のあったこの地に、2016年5月18日、ファミリーマート気仙沼鹿折店がオープンした。オーナーの成澤誠一さんは「真つ暗だったまちに明かりが灯ったのがうれしいと、お客様に喜んでいただきました」と笑顔を見せる。

「土地を貸したり売ったりすることを目指す」と「区域内で土地を探している事業者や個人」の間にUR都市機構が入って仲人役を担うもの。契約を迅速に進めるとともに、小規模に点在する土地を集約することで、大型商業施設などを誘致しやすくする利点がある。今後も、同制度を利用して、スーパーや金融機関などが出店予定だ。

ペットと一緒に住める災害公営住宅
 広大なかさ上げ地のなかで、ひときわ目を引くのが、8棟の真新しい災害公営住宅だ。気仙沼のシンボルである安波山を背景にすくっと立ち並ぶ姿は、復興の兆しの象徴のように見える。

と語るのは、8月に入居したばかりの佐川泰斗さん。幅広い年代の人の触れ合いがある鹿折のまちが好きで、この地にどうしても戻って来たかっつと言っている。この鹿折南の災害公営住宅を建設したのはUR都市機構。佐川さ

市街地整備が進む気仙沼の鹿折地区。中央に立ち並ぶ鹿折南災害公営住宅が、復興のシンボルになっている。



復興の「今」を見に来て！
 第8回 Part2
 気仙沼市
 宮城県

人が戻り、明かりが灯る。
 復興の第二ステージへ！



参加メンバー

- A 谷口めぐ
- B 川本紗矢
- C 横山結衣
- D 佐藤七海
- E 谷川聖
- F 大和田南那

メンバーは計7曲を披露。会場に集まったまちの人たちと一体となり、県道の開通を喜び合った。川本紗矢をはじめとするメンバー



届け! 笑顔

第5回

AKB48
「誰かのために」プロジェクト
東北復興支援
岩手県 大槌町・県道開通

A K B 48のメンバーが被災地支援ライブを始めてから実に60回目。2016年7月2日、岩手県大槌町を訪れたのは、大和田南那、谷川聖、谷口めぐ、佐藤七海、横山結衣、そして川本紗矢の6名。大槌町、UR都市機構岩手震災復興支援本部などが中心となり取り組んできた

「町方地区震災復興土地区画整理事業」の骨格道路となる「県道大槌小鎚線」の開通式だ。メンバーは計7曲を披露。会場に集まったまちの人たちと一体となり、県道の開通を喜び合った。川本紗矢をはじめとするメンバー

私たちは「ミニライブをさせていただけ、実際に道路を歩くことができました。ここにいる皆さんも一緒に、楽しい時間を過ごさせてもらいな。たくさん笑顔が見られて、とってもうれしかったです」と、大槌町の皆さんに精いっぱい笑顔と元気を届けた。



佐川さん一家が入居する8号棟はペット共生棟。

鹿折南の災害公営住宅に入居した佐川泰斗さんと妻の彩花さん、長女の結乃ちゃんと愛猫ラム。「家事動線もよく、収納もたっぷりです。暮らしやすい。広いので、仮設住宅にいたときに比べて娘のハイハイのスピードが速くなりました」と彩花さん。



暮らしやすく、インテリアを考えるのも楽しいです!

ニャー!



鹿折南住宅は、地元の人たちが大切にしている安波山を生かす配置や色彩に配慮した。

「鹿折は、もともと住・商・工業が混在するまち。災害公営住宅や店舗が呼び水となって、早く多くの企業や人々に戻ってきてほしいですね」と、気仙沼市建設部都市計画課 佐々木守課長。



●陸前高田市と気仙沼市でのUR都市機構の取り組みの詳細が紹介された『週刊新潮』掲載の「変わる日本の暮らし」と「まち」がWEBでご覧いただけます。
<http://www.ur-net.go.jp/info/change/>

「の住居は、ペットと一緒に住める」「ペット共生棟」だ。気仙沼復興支援事務所住宅計画課長の石渡直樹は、「震災後、ご家族を亡くされてペットを大切にしておられる方が多いなか、公営住宅でペットと住めなにかとの発想でつくりました」と、そのねらいを語る。

同じく住宅計画課の塚本恭将は「今年の12月には8棟全部の引き渡し完了します。この事業に携った人々から、よかったと言われるように最後まで全力投球した

「い」と言葉を継ぐ。気仙沼市建設部都市計画課の佐々木守課長は「URの方々は言葉も習慣も違う地を中心になって動いてくださり、ほんとうに助かっています。URさんがいなかっ

たら、どうなっていたことか」と、労をねぎらう。夜は漆黒の闇だった土地に人が戻って店ができ、にぎわいがよみがえる。復興の第二ステージへ、鹿折地区は新たな一歩を踏み出した。



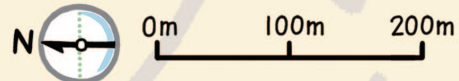
UR都市機構の住宅計画課長の石渡直樹(左)と塚本恭将(右)。鹿折南住宅は、4、5階建て8棟計284戸。中庭にドッグランがあるペット共生棟のほか、高齢者向けの外廊下から見守りができる部屋など、全8タイプがある。

あのまち このまち 歩いてみよう! その8

東京都 立川駅北口周辺

URが手がけた土地が、時を経て、素敵なまちに育ちました。地図を手に歩いてみませんか?

開発前	開発期間
米軍立川基地跡地	1990年~2006年



アートのまち、立川

世界に誇る

ファレ立川エリアのパブリックアート

1994年のまちびらきに合わせて、36カ国・92人の109作品を設置! まちに溶け込み続けています

- 1 パブリック 自由に楽しめる!
- 2 パブリック 作品はそれぞれ街中で役割を担っている!
- 3 パブリック 作品説明板がない! 単なるタイルの柄にあらずバリエーションを模した作品
- 4 パブリック 上から下まで縦横無尽! 足元に!



説明に示はられないように未設置中には作品だと気づかないものも?

単なるタイルの柄にあらずバリエーションを模した作品

広告主の見つからない看板にあらずよく見ると小さな鳥が飛んでいる作品

来年設立20周年! 現地で詳しい説明はファレ倶楽部のボランティアガイドをお願いしよう!

ファレアートを愛する市民の団体です

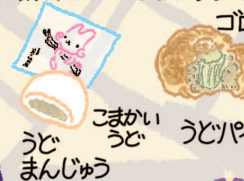
倶楽部に入会して10年、ガイドもイベント企画・参加も楽しい! 大規模修復が終わり、ますます輝く立川アートの魅力をぜひ体験しにきてください!



ファレ倶楽部 副会長 平野 久代さん

立川伊勢屋本店

地元素材を使った商品多数!



ファレ立川

ファレを歩けばアートに当たる!



立川 タカシマヤ

アニメ・マンガのまち 立川

多くの人気作に登場! 関連スポット・イベント・企業など多し!

人気マンガ「聖☆おにいさん」に登場!

園部肉店

惣菜が美味! ゴロゴロジャガイモのホクホクコロック

井筒屋

永遠に不滅の味! “幸せの味、あんどなつ”

多摩水族館

意表をつくネーミング! ほとんどは水生ペットショップ

オリジナルボードゲームを製作・販売!

「よきよきウドラ」

ルール・デザイン・印刷・製造、ぜんぶ Made in 立川!

ボードゲームの魅力いっぱいでお値段2200円(税抜)

カジュアルフレンチ フラットカフェ

おいしく楽しい街場のビストロ



味も量も大満足!



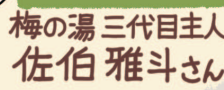
ワインは好みに合わせてその場でソムリエが提案

ウドは立川の名産品!! ウドラて?

市のキャラクターを決める市民投票で、おしくも2位だった“公式なりそこね”キャラクター



創業時は、回りは雑木林だったのが、どんどん変わったウチも、自由な発想で変えて来て、今では若いお客さんかとても多い銭湯です!



梅の湯 三代目主人 佐伯 雅斗さん

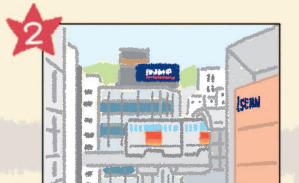
露天風呂、岩盤浴(別料金)、ジェットバス、フンピスのフィギュアコレクションなどなど、実にいろいろあります!

1F・2Fあわせて1万冊のマンガも!

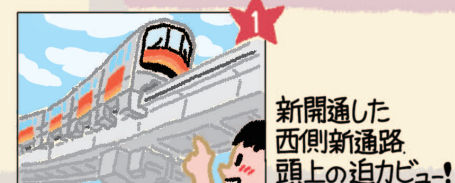
フィギュアや、アニメ・ゲームのキャラクターグッズの製作・販売といえばココ!

コトブキヤ立川本店

★モルレールのある風景



駅前ですんと姿を現す様子は、ちょっとモスラの幼虫のよう!?



新開通した西側新通路、頭上の迫りビュー!



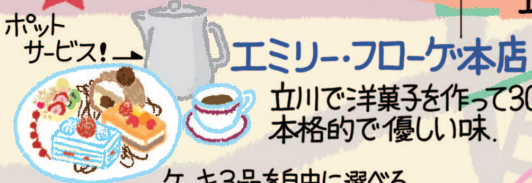
アート×ママチャリ×モルレール、"ザ・立川!"のすてきなひとコマ

国営昭和記念公園

みどりの文化ゾーン 2005年オープンの無料エリア

花みどり文化センター 昭和天皇記念館

外観、屋上緑化、建物の内部、どれをとっても必見のからこよさ。カフェもあります。



エミリー・フローク本店

立川で洋菓子を作って30年、本格的で優しい味。

ケーキ3品を自由に選べるお得なケーキプレート。

NPO法人 SOU

全国各地の福祉施設で作られたすてきな商品を多数展示・販売。2017年3月までの期間限定出店!



変型ハガキ、ていねいな細工の革製品

紙匠 雅

こだわりの和紙&書道用具店。店内には美しい和紙がズラリ!

「うど和紙」はオリジナル品、うどの皮

山梨居酒屋 よってけし

山中湖村出身の店主が作る郷土料理が美味。

山梨からは都心の玄関口的な立川、山梨県人も多し!

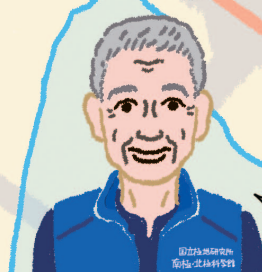


鳥もツ煮、お酒がすすむ

僕が生まれ育った立川は、国際的な歴史もあり、整った外観とは別の、DEEPな側面が魅力。想像力を刺激してくれる、奥深い街です!



フラットカフェよってけし常連 俳優・脚本家 三島 ゆたかさん



ミュージアムナビゲーター メンバー 元南極観測隊員 村山 治太さん

南極・北極を調べると地球の過去や未来が見えてきます。ここ立川でぜひそんな体験をしてください!

国立極地研究所 南極・北極科学館

研究成果や貴重な資料をわかりやすく体験を交えて展示。

オロラシアター!

直径4mのドームシアターで南極・北極で撮影したオロラの映像を上映。壮麗な美しさ!

南極の氷にタッチ!

南極から持ち帰った氷を展示。

雪上車に乗車!

日本で初めて南極点に到達した雪上車!



観測隊の服を着て記念撮影。コーナーでパチリ!

ただいま 第57次隊 越冬中!

隊服を試着! プツの重さにビックリ!



観測隊の服を着て記念撮影。コーナーでパチリ!

UR都市機構からのお知らせ

NEWS

新たなランドマークの誕生へ 四谷駅前再開発事業が着工

UR都市機構が三菱地所をはじめとする事業パートナーや権利者とともに推進する四谷駅前地区第一種市街地再開発事業。これは四ツ谷駅前の約2.4ヘクタールの区域に、大規模な広場・緑の空間を整備し、地域の防災性の向上を図るとともに、地上31階建てのオフィスビル、商業施設、住宅、教育施設、公共施設などの多機能施設を整備する大規模再開発事業です。今年9月に着工し、完成は平成31年度の予定です。

UR都市機構はこの事業を通して、東京の中心に位置する四谷の新たなランドマークを創造し、まちの魅力をさらに向上させていきます。



MOVIE

今年、団地映画イヤー？ 『永い言い訳』全国で公開中！

れる』『ディア・ドクター』で高い評価を受ける西川美和さんが原作・脚本・監督した映画『永い言い訳』。ひとを愛することの「素晴らしさと歯がゆさ」を描いた、新しい家族の物語です。

この映画では団地が重要なシーンとして登場します。不慮の事故で妻を亡くした主人公の本木雅弘さんが、同じく妻を亡くした男性が住む団地で、

彼の子どもたちの世話をすることから物語が展開します。

是枝裕和監督の『海よりもまだ深く』、阪本順治監督の『団地』や、『アスファルト』など、今年、団地が登場する映画が目白押し。『永い言い訳』は大ヒット公開中です。ぜひ劇場に足をお運びください。

<http://nagai-iwake.com/>



©2016 『永い言い訳』製作委員会 配給：アスミック・エース

双葉町とUR都市機構

「双葉町内復興拠点の整備等の復興まちづくりの推進に向けた覚書」を交換

9月6日、UR都市機構は福島県双葉町と「双葉町内復興拠点の整備等の復興まちづくりの推進に向けた覚書」を交換しました。

これはUR都市機構がこれまでのまちづくりや震災復興支援の経験で培った技術力やノウハウを

を活かし、双葉町の復興まちづくりに関する計画や調査、設計などに相互協力することを確認するもの。この覚書により、東日本大震災および福島第一原子力発電所の事故からの双葉町の復興まちづくりの更なる加速化を図ります。

From Editors

団地に点在するアート作品を前に、思い思いの方法でその楽しみ方を考える大学生。触ってみたり、座ってみたり、のぞいてみたり、叩いてみたり！ これらの作品が誰もが自由に触られる場所にあることの意味を考えると、その可能性は無限に広がっているような気がしました。外壁のデザイン。緑豊かな屋外空間。ぼっと明かりが灯る夕景。ただ青だけの空も、移ろいゆく季節も、団地を彩る素材のひとつ。でも、こうした美しさを魅力に感じるのには、そこで過ごし、そこで暮らす方々の笑顔があってこそだと思います。

本誌を片手に、団地のさまざまなアートや美しい景色を探しながら楽しんでいただければ幸いです（UR都市機構・広報担当S）

次号のお知らせ

「UR PRESS」48号は2017年1月末発行予定です。お楽しみに！

プレゼント付きクロスワードパズル

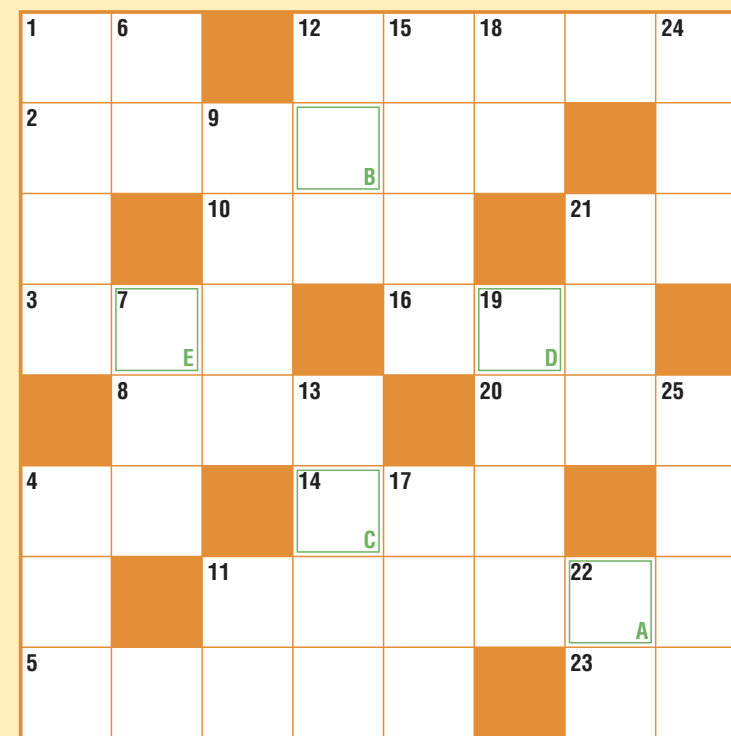
パズル制作 ニコリ

ヨコのカギ

- 1 備忘のために書き付けます
- 2 輪島市や珠洲市は、ここにある市です
- 3 タイを抱えた姿で描かれる福の神
- 4 薬を飲むときにこれで飲む人も
- 5 フランス料理の——をご馳走になった
- 8 予定がある日はカレンダーに——を付けておこう
- 10 上司の——で、近所の店に買い物に行った
- 11 個人情報保護にも使われる、紙をズタズタにする機械
- 12 ——から騒がしいなあ、いったい何ごとだい？
- 14 酔っ払った人のよろよろした足取りを——足とも言います
- 16 ——遊山 ——台
- 20 ——も育ちも、下町なんです
- 21 しぎ焼きにしたり、漬け物にしたり、マーボーにしたり
- 23 タコが引いて空へと上がる

タテのカギ

- 1 予定が——に迫っていて、もう猶予がない
- 4 お金を入れます
- 6 ここで失敗したら、——も子もない
- 7 仇敵を倒し、勝利の——に酔う
- 9 はりきっちゃうこと
- 11 相撲取りが踏みます
- 12 さほど払わずに買えます
- 13 ことごと煮込む料理といえば
- 15 ヤツガシラも衣かつぎもこの作物
- 17 ウェディング—— ——アップ
- 18 食——は、いろんな料理に詳しい
- 19 新たな方法を採用したら、仕事の——があがった
- 21 ——に揺れる小舟
- 22 タイトルともいいます
- 24 「ごはん」や「米」を横文字で言うと
- 25 支払いのあとレジでもらえる紙



プレゼント&応募方法

クロスワードパズルを解いて、プレゼントにご応募ください。

PRESENT 1

オール岩手純米酒
「Rise Up, KESEN」
4名様

岩手県産米、岩手オリジナル清酒酵母、岩手初オリジナル麹菌、水、南部杜氏と、とことん岩手にこだわった、酔仙酒造の純米酒。720ml入り。



PRESENT 2

DVD
『海よりもまだ深く』5名様

是枝裕和監督自身が長年暮らした団地を舞台に撮影し、注目を集めた映画『海よりもまだ深く』のDVD。阿部寛、真木よう子、樹木希林など役者陣の味わいのある演技も話題に。



PRESENT 3

宮城の極上缶詰セット 4名様

宮城の食材にほれ込んだイタリアンのトップシェフたちが開発に携わり、アイディアと技を詰め込んだ缶詰。「気仙沼産メカジキの地中海風煮込み」はムール貝と昆布のだしが味の決め手。「石巻産銀鮭のクリームスープ仕立て」は白いんげんのピューレと白みそ入りのまろやかな味が魅力。パスタに絡めたり、リゾットにしても。



●応募方法

本誌付属の応募はがきに、クロスワードパズルの答えと希望プレゼント番号、必要事項をご記入の上、郵送してください。

●応募締め切り

2017年1月31日(当日消印有効)
当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

*お酒のご応募は20歳以上の方に限らせていただきます。

46号の解答

A ダ B ン C チ D ラ E ブ

